

# 研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 藤岡 雅哉

令和6年4月23日下記について、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	子ども・若者の声を形にするには #市民 #議員 #行政
研修の目的	「子ども・若者は地域を担う1人の主体である」令和5年4月の子ども基本法の施行以来、国や自治体で子どもや若者の意見が尊重され、子どもに関する施策を策定・実施・評価するときには「子ども・若者の意見を反映させるために必要な措置を講ずる」ことが義務化された。それぞれの研究分野・事例についての発表、後半は参加者同士の対話により、子ども・若者の声をどうしたら施策に反映できるか研究する。
参加者 18人程度	事務局 NPO法人わかもののみち 土肥さん・高木さん
登壇者	吉川恭平さん NPO法人子どもにやさしいまちづくり 石巻市こどもセンターらいつ 青木佑一さん 早稲田大学マニフェスト研究所
	<p>*吉川さん講演</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・長野県茅野市で「子ども会議」において市長シンポジウムで子どもが提案し、実現した「考えたことを実現するプロジェクト」をきっかけに「らいつ」で実践</li><li>・こどもセンター「らいつ」運営に関するテーマを、おとな委員5名×子ども委員5名で最終決定し「まちづくり意見交換会」ワークショップで提言を作成し市長と意見交換や、地域のキーパーソン（地元企業有力者など）とも意見交換し、公開質問状活用も</li><li>・考え方のポイント①開かれた子ども参加であること（一部の意見を言いたい子に限定されないように）②日常と社会がリンクしている事③「やってみたい」「おもしろそう」の延長であること</li></ul> <p>*青木さん講演</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「若者は有権者ではないが、主権者である」浦和大学准教授 林大介氏 ⇔高校生・大学生にとって政治や選挙が遠いとの考え、感じ方をベースに</li><li>・平成22年1月 明るい選挙推進委員会調べでは「政治を知らないので投票しない方がよい」率の高さが課題／社会的背景「政治不信」「政治の若者離れ」→「若者の政治離れ」「投票しても変わらない」⇔「投票しないと変わらない」ではどうすれば</li><li>・「マニフェストスイッチ」＝選挙のオープンデータ化で政策比較 各地の選挙で活用。信濃新聞では選挙のたびに実施／選挙公報は候補者の自分側の主張（テーマも自由）なのに対し、マニフェストスイッチでは就職時の「エントリーシート」のように全候補者に統一項目で比較している</li><li>・高校生に実際の選挙情報（マニフェストスイッチ）による模擬選挙する事で「投票体験」「社会の一員である実感」を感じさせる取組</li><li>・「のしろ若者キャンパス」では高校生から30代まで 声を政治の場に届ける 市議会議員が交代で若者と意見交換する企画を定期開催。議員は一般質問につなげるなど。</li><li>・岡山県立新見高校 総合的な学習で高校生が実際に「陳情」し、地域社会の課題を自分の問題と</li></ul>

して議場で提言。

\*グループディスカッションでの気づき

- ・神奈川県茅ヶ崎市 NPO 法人サポート茅ヶ崎：「子どもファンド」を創設。子ども（小3から18歳くらい）がまちづくりに関する企画書を提示し、審査の上必要なお金を助成。
- ・千葉県佐倉市 NPO 法人「さくら子どもステーション」子ども若者参画は当たり前ドイツミニミュンヘンをまねて「ミニさくら」お店・市議会・市役所があり、遊びを通して子どもたちが自分たちの街を作る
- ・さいたま市「ミニさいたま」あるが、運営団体の高齢化が課題 「子ども選挙」も行っているが、さいたま市は政令市で10区あり、横のつながりが薄い課題
- ・渋谷区では小学校の探求の時間で街づくりを子ども同士の対話で研究

今後調査研究・実践すべき事項

- ✓ 「こども基本法」「こども大綱」再読み込みによる理解
- ✓ 他の自治体の「子ども基本条例」などの確認
- ✓ 焼津市における「焼津市こども計画」についてのヒアリング
- ✓ 「タウンミーティング」による子ども・若者との意見交換

\* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

\* 参考資料等がある場合は、添付してください。